



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●アーム・アーム受け取付けねじは $2.0 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$ { $20 \pm 5 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$ }のトルクで止めてください。部品の脱落、開閉不良、作動不良の原因になるおそれがあります。

■取付け上のお願

- アームの回転防止テープは取付直前まで剥がさないでください。アーム故障の原因になるおそれがあります。
- アームを室内側に傾けて取付けしないでください。開閉不良、作動不良の原因になるおそれがあります。
- アーム受けには取付け向きがあります。正しい向きに取付けてください。開閉不良、作動不良の原因になるおそれがあります。
- 取外したロック受けスペーサー、外れ止めピース、外れ止めピース取付けねじは再度使用しますので紛失しないようにしてください。
- 連動バーにアーム受け取付け用の穴加工をする際は、キズを付けたり、変形させたりしないよう注意してください。
- 取付け後、必ず小開口状態、全開状態になることを確認してください。

■部品・ねじ一覧表

記号	全仕様共通			連動バーが同梱されていない場合			連動バーが同梱されている場合
	㊦	㊧	㊨	㊩	㊪	㊫	㊬
姿図							
	アーム	トラス小ねじ	操作説明ラベル	アーム受け	裏板	皿小ねじ 緩み止め付き	連動バー
商品コード	Z-01 L/R - BXS F	2	1	1	1	2	-
	Z-11 ~ Z14 L/R - BXS F	2	1	-	-	-	1

※㊬連動バー（㊩アーム受け・㊪裏板・㊫皿小ねじ組付け済み）は商品コードによって同梱されている場合とされていない場合があります。
 ※連動バーが同梱されていない場合は、サッシ縦枠に取付いている連動バーを使用しますが、アーム受け取付け穴の有無によって取付け手順が異なりますので連動バーの仕様を確認してから作業を進めてください。

■取付け順序

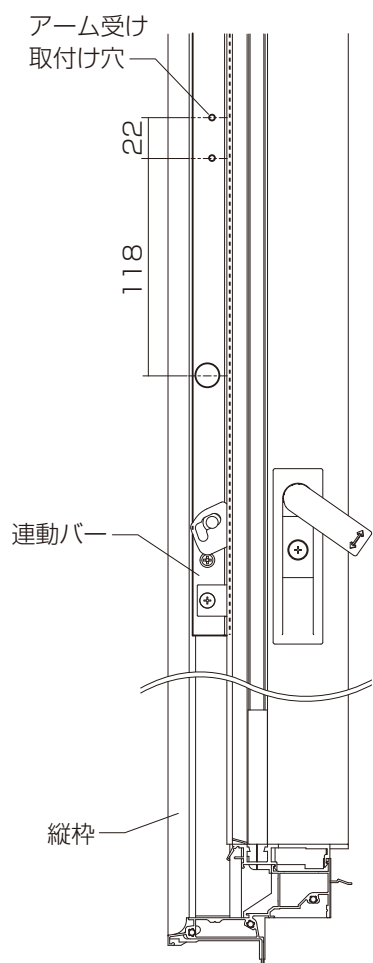
1 連動バーの確認

■連動バーが同梱されていない場合

- サッシ縦枠に取付いている連動バーの仕様を確認してください。
- ※連動バーの右図の位置にアーム受け取付け穴(2個)があいている場合は手順5の作業を行う必要はありません。

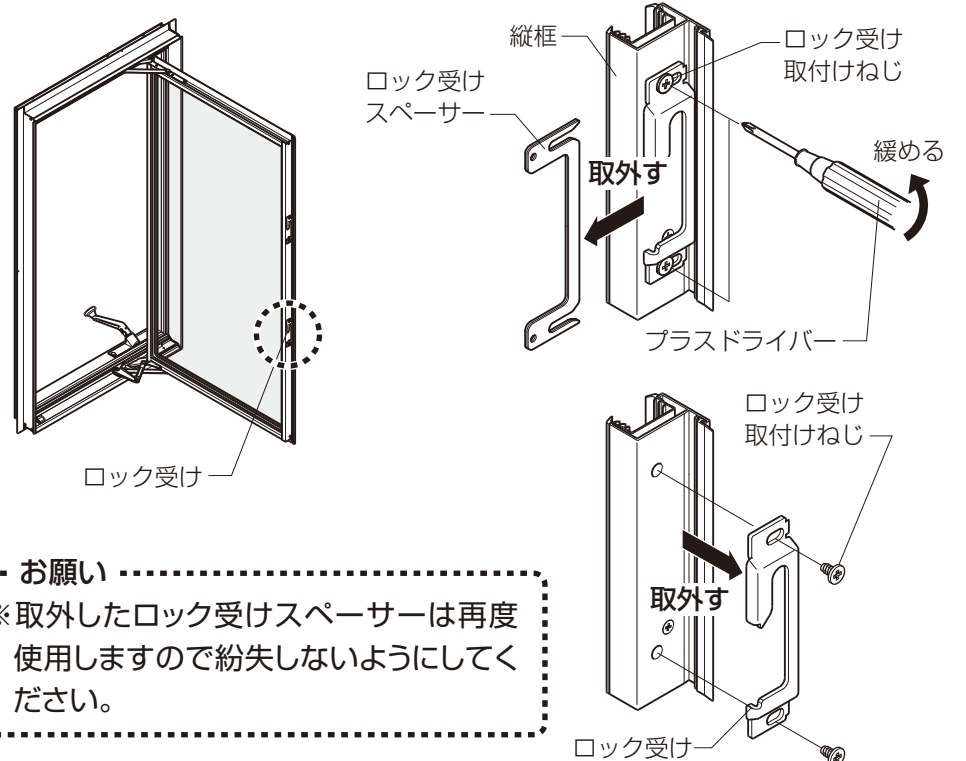
■連動バーが同梱されている場合

- 同梱されている連動バーにはアーム受けが取付けてあります。手順5と6の作業を行う必要はありません。



2 ロック受け(下部側)の取外し

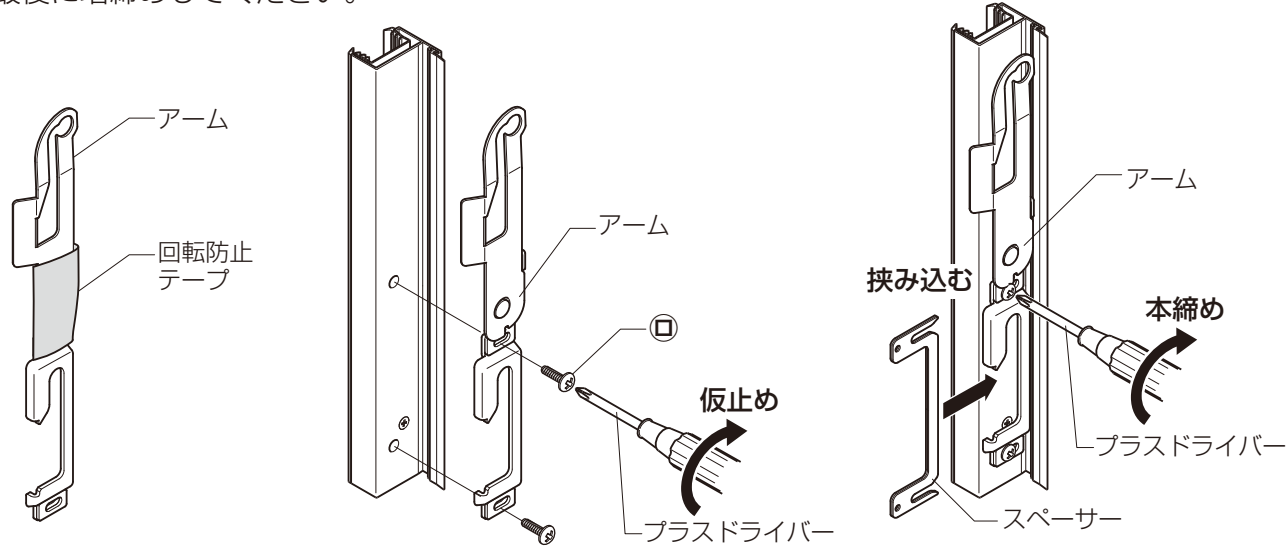
- ①縦枠下部側のロック受けのロック受け取付けねじを緩めロック受けスペーサーを取外してください。
 ※サッシ出荷時はロック受けスペーサーが2枚取付けされていますが、現場によっては1枚もしくはついていない場合もあります。
 ※ねじを緩めすぎるとねじ・スペーサーの落下、紛失につながります。
- ②ねじを取外し、ロック受けを取外してください。



お願い
 ※取外したロック受けスペーサーは再度使用しますので紛失しないようにしてください。

3 アームの取付け

- ①アームの回転防止テープを剥がし、ⓐトラス小ねじで仮止めして取付けてください。
- ②ロック受けを外した時に取外したロック受けスペーサーを挟み込み、ねじを本締めしてください。最後に増締めしてください。



お願い

※アームを室内側に傾けて取付けないでください。開閉不良、作動不良の原因になるおそれがあります。

▲注意

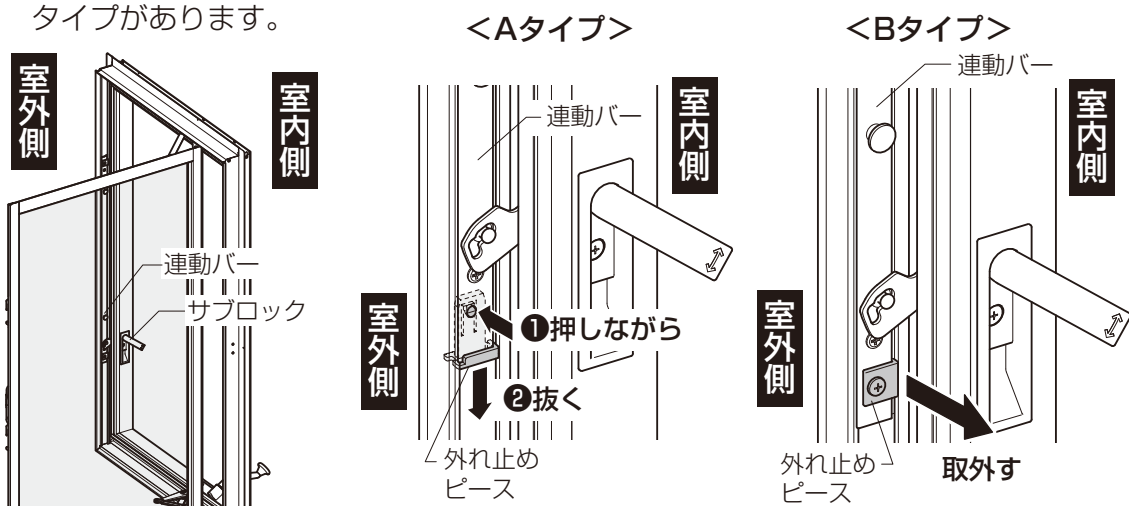
●アーム・アーム受け取付けねじは $2.0 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$ { $20 \pm 5 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$ }のトルクで止めてください。部品の脱落、開閉不良、作動不良の原因になるおそれがあります。

4 連動バーの取外し

※連動バーは、HサイズによりAタイプとBタイプがあります。

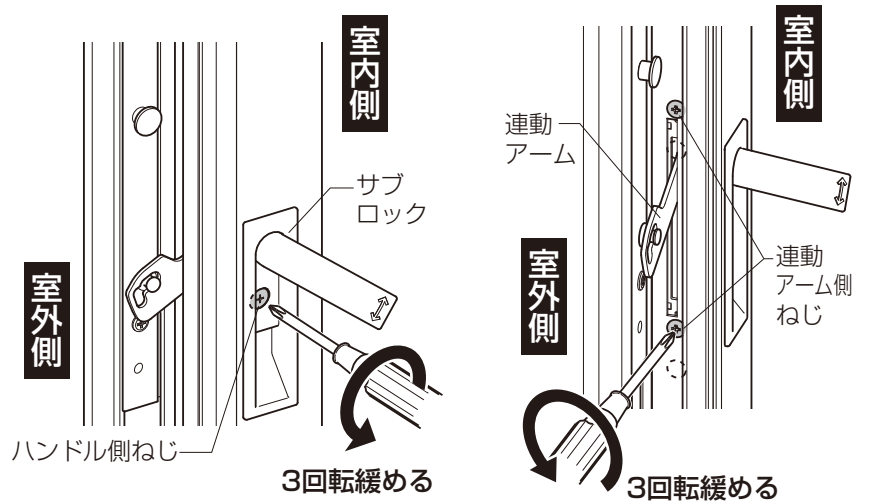
- ①連動バー上下2箇所の外れ止めピースを取外します。

- ②サブロックのハンドル側1箇所、連動アーム側のねじ2箇所を3回転緩めてください。(ねじを緩めることによりサブロックの連動アームを左右に傾けることができ、連動バーが外れやすくなります。)



お願い

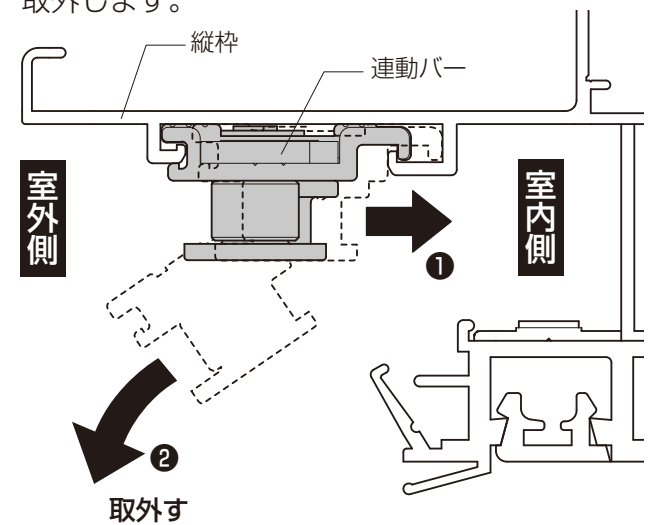
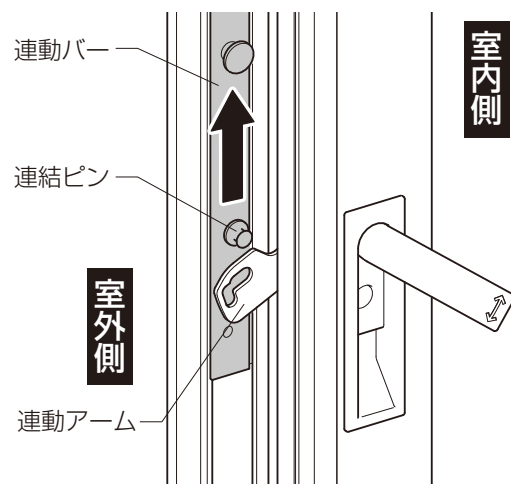
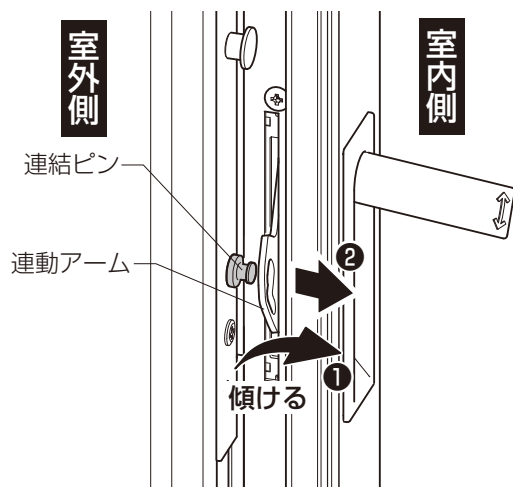
※取外した外れ止めピース、外れ止めピース取付けねじは再度使用しますので紛失しないようにしてください。



- ③サブロックの連動アームを傾けて連動バーの連結ピンから外します。

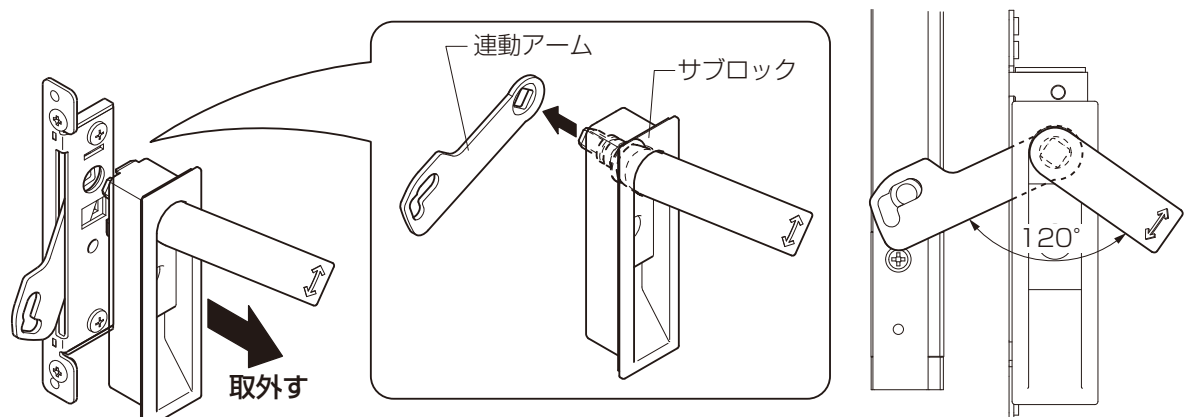
- ④連動バーを上にもずらし、連動バーの連結ピンが連動アームより上になるようにします。

- ⑤連動バーを室内側に寄せてから傾けて縦枠から取外します。



■縦枠から連動バーが外れにくい場合

- ※サッシH 700mm~750mmはねじを緩めただけでは縦枠から連動バーが外れにくい場合があります。
- ①サブロックのハンドル側ねじを完全に取外し、サブロックを取外してから外してください。
 - ②サブロックをもとに戻す時はハンドルと連動アームを右図の位置(組込み角度)で取付けてください。※組込み角度を間違えるとハンドルが収納できません。



5 連動バーの加工

※本作業は連動バーが同梱されている場合と、サッシ縦枠に取付いている連動バーにアーム受け取付け用の穴加工がされている場合は作業を行う必要はありません。

①本取付け説明書の最後に型紙があります。型紙を切り取り、連動バーの裏面に型紙を合わせてφ5貫通穴を2カ所あけてください。

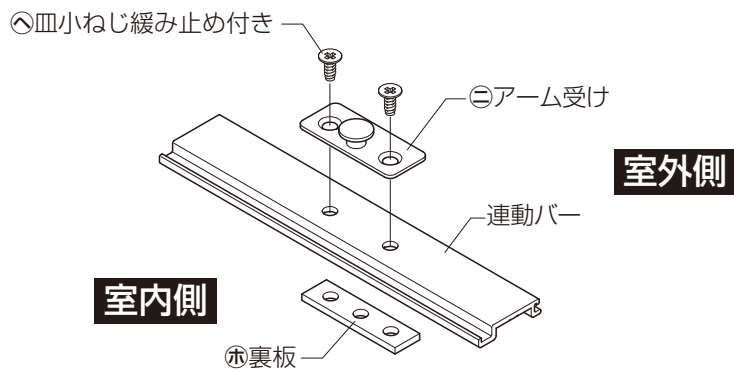
※加工穴にバリがあるとアーム受けが取付けられませんので、バリをヤスリなどできれいに処理してください。

お願い
※連動バーにアーム受け取付け用の穴加工をする際は、キズを付けたり、変形させたりしないよう注意してください。

6 アーム受けの取付け

※本作業は連動バーが同梱されている場合は作業を行う必要はありません。

①アーム受けを連動バーにⓐ皿小ねじ緩み止め付きで取付けてください。



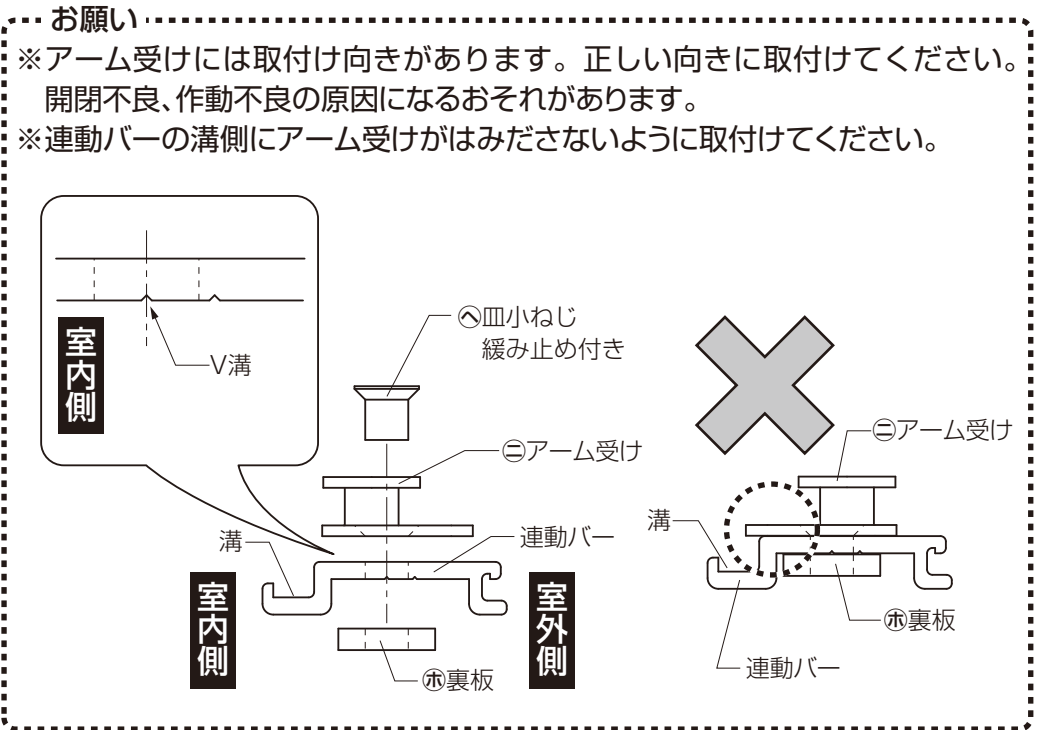
注意

- アーム・アーム受け取付けねじは $2.0 \pm 0.5 \text{ N} \cdot \text{m}$ { $20 \pm 5 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$ }のトルクで止めてください。部品の脱落、開閉不良、作動不良の原因になるおそれがあります。

7 連動バーの取付け

●縦枠に連動バーを「4 連動バーの取外し」と逆の手順で取付けます。

※連動バーが同梱されている場合は、連動バーの上下2個所の外れ止めピースを一度取外してから作業をしてください。



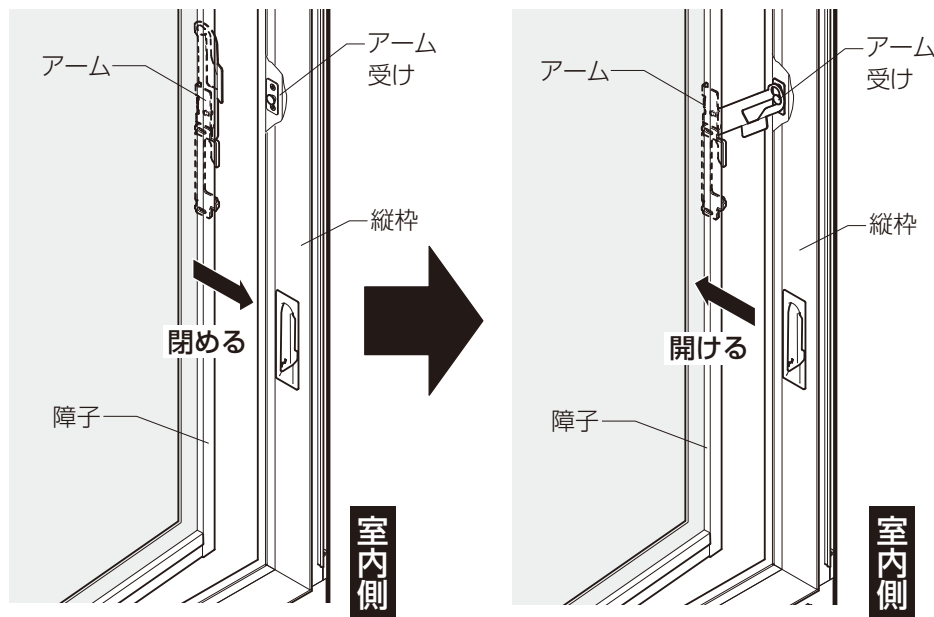
※連動バーの溝側にアーム受けがはみださないように取付けてください。

8 障子の開閉確認

お願い
※取付け後、必ず小開口状態、全開状態になることを確認してください。

①小開口状態の確認

- 障子を閉めると自動的に小開口状態になります。再度障子をあけて、小開口状態になっているか確認してください。
- 障子を閉めた状態でサブロック操作ができることを確認してください。



②全開状態の確認

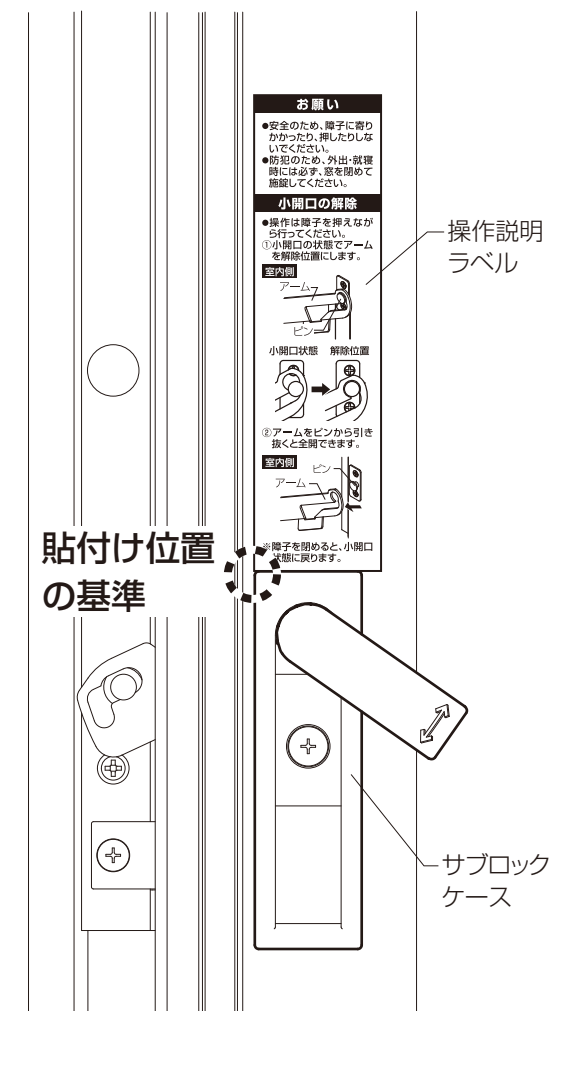
- アームを解除位置にてアーム受けから抜き、障子を90°まであけることができるか確認してください。(障子を閉めると再び小開口状態に戻ります。)



※障子が閉まらない場合、サブロックの操作が重い場合、小開口状態にならない場合は、障子の建付け調整、アームとロック受けの調整、ロック受けスペーサーの調整を行ってください。

9 操作説明ラベルの貼付け

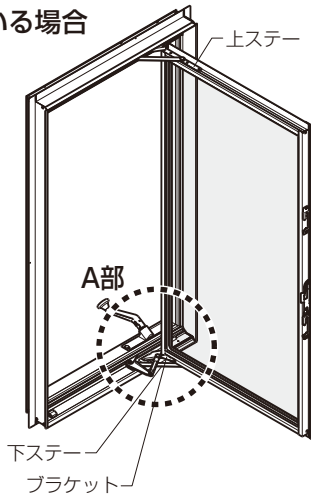
- 下図のようにサブロックケースを貼付け位置の基準にして操作説明ラベルを貼付けてください。



障子の建付け調整

障子の戸先が下がっている場合

- 上・下ステーと下棧のブラケットで調整してください。



●上下ステーの調整

- ※上・下のステーの固定穴は長穴になっています。戸先が下がっている場合は、図1のようにステーの位置を調整してください。
- ※ステーの固定ねじを一度緩めて調整します。

戸先側

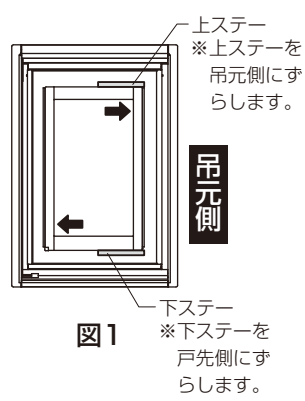


図1

●ブラケットの調整

- ※下のステーの位置を調整したら必ず、図2のようにブラケットの調整をしてください。
- 下ステーを移動したのと同じだけブラケットを吊元側に動かしてください。
- (下ステーの位置を調整しない場合は、ブラケットの調整も不要です)
- (ブラケットは出荷時は長穴の中心で固定されています。)
- ※ブラケットの固定ねじを一度緩めて調整します。

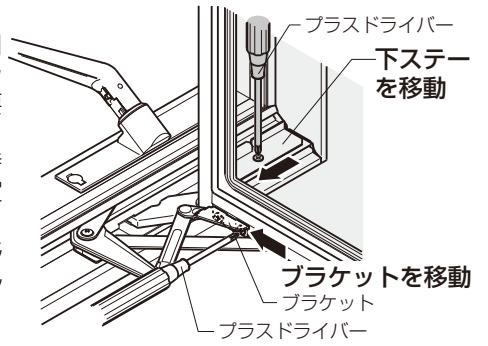
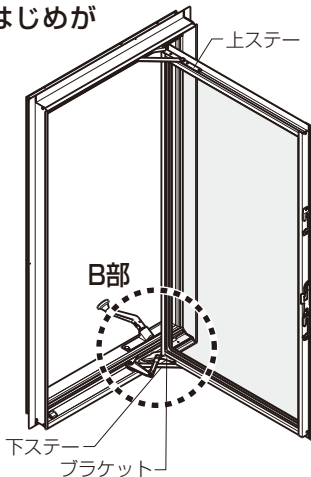


図2 (A部詳細図)

ハンドルでの障子開けはじめが重い場合

- 上・下ステーと下棧のブラケットで調整してください。



●上下ステーの調整

- ※上・下のステーの固定穴は長穴になっています。ハンドルでの障子開けはじめが重い場合は、図3のようにステーの位置を調整してください。
- ※ステーの固定ねじを一度緩めて調整します。

戸先側

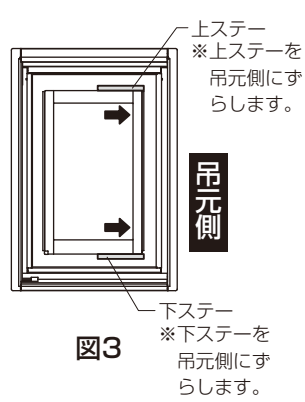


図3

●ブラケットの調整

- ※下のステーの位置を調整したら必ず、図4のようにブラケットの調整をしてください。
- 下ステーを移動したのと同じだけブラケットを戸先側に動かしてください。
- (下ステーの位置を調整しない場合は、ブラケットの調整も不要です)
- (ブラケットは出荷時は長穴の中心で固定されています。)
- ※ブラケットの固定ねじを一度緩めて調整します。

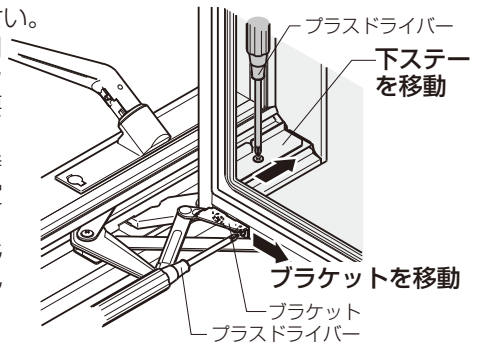
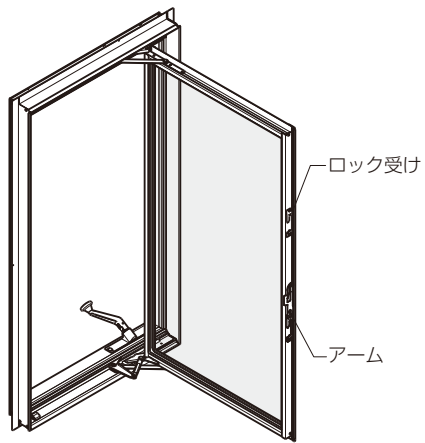


図4 (B部詳細図)

サブブロックの操作が重い場合

- アームとロック受けの位置調整またはロック受けスペーサーの高さ調整をしてください。

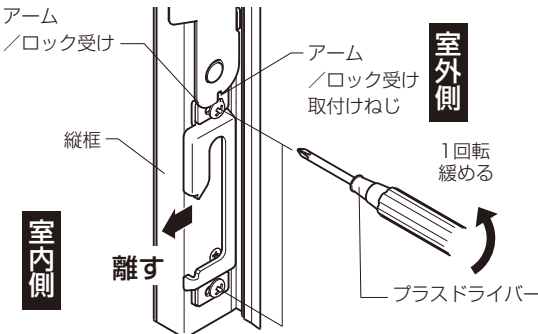
※詳細イラストはサーモスにアームを取付けた状態を表示していますが、ロック受けの場合や防火戸FGも同様です。



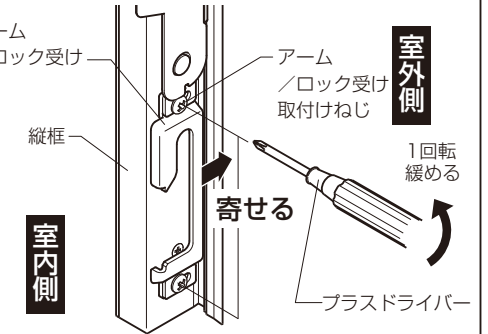
●アームとロック受けの位置調整

- ※枠と障子が引寄り、ハンドル操作ができる範囲でアームとロック受けを調整してください。
- ※アームまたはロック受け取付けねじを緩め(上下1回転)、位置を調整してください。
- ※ねじを緩めすぎると、ねじ・スペーサーの落下、紛失につながります。

[サブブロックの操作が重い場合]

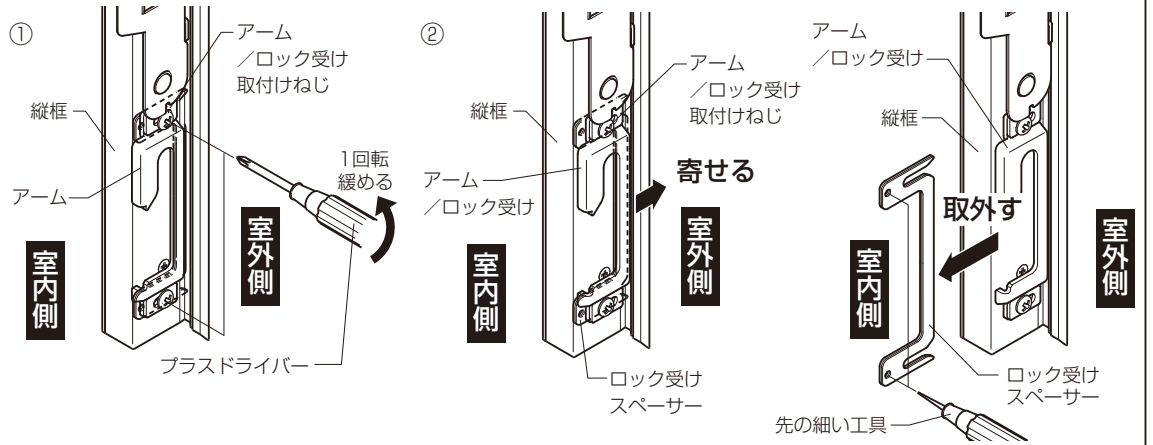


[サブブロックの操作が軽い場合]



●ロック受けスペーサーの高さ調整

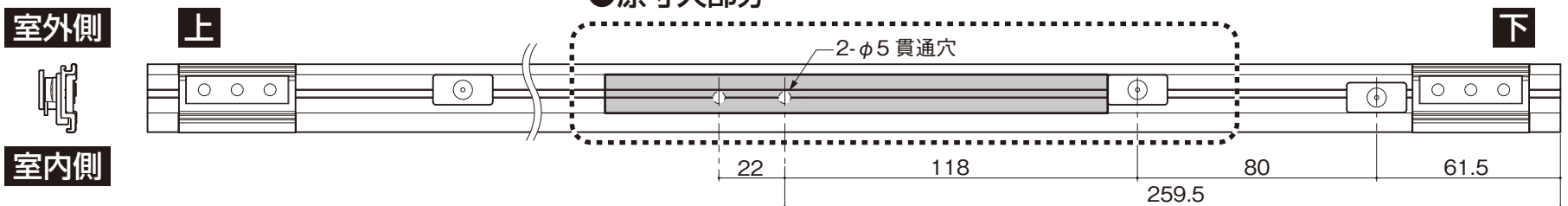
- ※サッシ出荷時はロック受けスペーサーが2枚取付けされていますが、現場によっては1枚もしくはついていない場合もあります。
- ①アームまたはロック受け取付けねじを緩めます。(上下1回転)
- ※ねじを緩めすぎると、ねじ・スペーサーの落下、紛失につながります。
- ②アームまたはロック受けを室外側に寄せてから、スペーサーを取外します。
- ※取外しにくい場合は、先の細い工具でスペーサーの穴にひっかけて引抜いてください。(サーモスの場合のみ)
- ※スペーサーを1枚取外すと0.75mm、2枚取外すと1.5mm、アームまたはロック受けが縦枠側に寄ります。(防火戸FGの場合は1枚0.5mm)
- ③枠と障子が引寄り、ハンドル操作ができる範囲でアームとロック受けを調整してください。
- ※①～③の作業を全てのアームとロック受けで行ってください。



位置決め紙

- ※原寸大の型紙を切り取り、連動バーの裏面に型紙を合わせて、φ5貫通穴を2カ所あけてください。
- ※下図はR勝手を示します。L勝手の場合は裏向きにして使用してください。

●原寸大部分



●原寸大の型紙

